

クワシロカイガラムシ（第3世代幼虫）の 防除対策について

令和7年9月4日
埼玉県茶業研究所

本年のクワシロカイガラムシ（以下「クワシロ」）第3世代ふ化幼虫の発生ピークは平年並（青梅、所沢アメダス）ですが、現地茶園での温度データでは発育停止となる30℃以上の時間帯が多く、アメダスによる発生ピークよりも遅くなっており、クワシロが本県で問題になり始めた頃（平成15年頃）の9月下旬～10月初旬になる見込みです。

白い雄まゆが目立つなど発生が多く認められる茶園では、下記の情報を参考に適切な時期に防除対策を実施しましょう。なお、防除適期の判断が難しい場合は、メール（難しい場合は電話、FAXで。文末に表記）でお気軽にご相談ください。

1 有効積算温度による推定

青梅アメダスと各地点の茶株内温度から推定したクワシロの防除時期は以下のとおりです。防除適期はふ化幼虫の推定ピークの翌日から4日後程度が目安です。

調査地点	防除適期 ()内は幼虫ふ化の推定ピーク
所沢市（林）	9月24日～27日（9月23日）
所沢市（東狭山ヶ丘）	9月27日～30日（9月26日）
狭山市（笹井） 入間市（茶研・上谷ヶ貫）	9月28日～10月2日（9月27～28日）
入間市（木蓮寺）	10月8日～11日（10月7日）
青梅アメダスデータ	9月24日～27日（9月23日）
所沢アメダスデータ	9月22日～25日（9月21日）

入間市（野田）、入間市（上藤沢）：欠測（機器故障）

2 防除時期のポイント

台風や降雨等により防除適期を逸することも考えられますが、発生が目立つ場合は、防除適期から数日遅れても防除の実施が大切です。しかし、雄まゆ、雌成虫の介殻の発生が枝幹に散見される程度の発生であれば、今回の防除を省略しても次世代の発生が少ない（周辺からの侵入等の要因を除く）ことがわかっています。

3 防除対策のポイント

(1) 類似の被害様相に注意しましょう

現在、クワシロに類似した白い虫（アオバハゴロモ幼虫の寄生枝、ナシシロカイガラムシ、チュウゴクアミガサハゴロモ幼虫）の被害が見られます。また、秋整枝時期にはチュウゴクアミガサハゴロモの産卵痕が発生します。クワシロと間違えて不必要な防除をしないように注意しましょう。（別添 注意喚起資料参照）

(2) 3月にプルートMCを散布したほ場

8月以降、雄まゆ、雌成虫の介殻が多く見られるほ場では散布の効果が落ちていたり、周辺からの新たな侵入が考えられます。防除対策を検討しましょう。

(3) プルートMCを散布していないほ場

天敵に影響の少ないアプロードエースフロアブルまたはコルト顆粒水和剤を農薬使用基準に従って散布します。散布に当たっては茶株内の枝幹に十分に薬液がかかるよう丁寧に実施しましょう。ジノテフラン粒剤の土壌混和处理も可能です。摘採時期や同一成分の使用回数に注意しながら、各世代を対象として使用すると密度抑制効果が高まります。ただし、欧州方面への輸出予定している茶園やその周辺では使用しないようにしましょう。

適期より対策が遅れた場合は、薬剤散布直後、または単独で 40kg/10a 相当量の米ぬかやナタネ粕を茶株の枝幹に付着するように処理するとクワシロ抑制効果があります。

マシン油乳剤の散布も適期を逃した場合の対策として実施可能です。

農薬を使用する際には、必ず使用農薬のラベルを確認しましょう

連絡先: 埼玉県茶業研究所
農業革新支援担当 小俣
TEL: 04-2936-1351
FAX: 04-2936-2891
E-mail: omata.ryosuke@pref.saitama.lg.jp

